

おち町

OCHI TOWN

議会だより

No.87

2009年2月1日発行

発行/高知県越知町議会



力を合わせてペッタンコ

経済対策の補助金1,225万円 ……2

一般会計12月補正6,332万円

出産一時金に3万円加算 (条例改正) ……4

県の産業振興計画への町の対応など4人が聞く (一般質問) ……5

愛読される議会だよりをめざして (全国研修報告) ……9

廃校校舎の活用と有機農業を学ぶ (島根県吉賀町研修) ……10

園児との交流で地域を元気に (野老山6人衆) ……12



国からの経済対策

補助金 1,225万円

12月補正予算

(単位：万円)

会計名		補正額	補正後の額
一般会計		6,332	37億9,154
特別会計	介護保険	715	9億1,928
	後期高齢者医療	973	9,640
	簡易水道	391	1,664

12月定例議会は、12日から16日までの会期を行い、一般会計補正予算、介護・後期高齢者・簡易水道の3特別会計補正予算、職員の給与条例の一部改正など12件と教育委員の任命1件を全会一致で可決・同意しました。

一般質問は4人が登壇し、町の行政課題等について執行部の考えをたえました。また、議員提案の意見書5件を全会一致で可決しました。

予算内容と質疑

一般会計補正予算は6332万円を追加し、総額を、37億9154万円とする。

歳入は、町民税1400万円、固定資産税1200万円、地方交付税を20048万円、国からの経済対策

の補助金1225万円、町債(借入金)690万円などを計上。

歳出は、社会福祉費に2435万円、道路橋りょう費に2327万円、砂防費の減額1145万円など。

岡林学議員

国の補助金

1225万円の使い道は、**大原総務課長** 12月補正分

は、NTサーバ購入費120万円、公用車2台(町長車・大型ワゴン車)購入費647万円。残りの458万円は、既決事業分(日ノ浦集会所整備、宮ノ前公園舗装、農道改良舗装など)へ充てる。

NTサーバ

庁内のインターネットを管理する中枢機器。

一般会計

6332万円を補正

町長車の買い替え

297万円

総務費

町長車購入費を297万円。庁内ネットワークのNTサーバ購入に120万円。戸籍総合システム導入委託料減額110万円など。

山橋正男議員

町長車は古

くなったので替えるのか。**大原総務課長** 耐用年数をかなり過ぎて古くなっており、国の全額補助金でハイブリッド車に替える。

民生費

後期高齢者医療費負担金に1808万円。障害者自立支援扶助費に240万円など。

商工費

旧JR越知駅の解体に141万円

旧JR越知駅の解体に141万円。プレハブの待合所と仮設トイレの購入に107万円。

西川晃議員

仮設の待合

所とトイレの設置期間は。**小田産業建設課長** 旧JR越知駅を3月めどに取り壊して、新しい建物ができるまで設置する。



JR越知駅跡地活用の話し合いが進む検討委員会

宮ヶ奈路に簡易水道を計画

衛生費 片岡簡易水道（宮ヶ奈路地区）調査ボーリング委託料として、簡易水道事業特別会計に391万円の繰出金を計上。

山橋正男議員

宮ヶ奈路地区の水道が、なぜ片岡簡易水道なのか。

山本環水建設課長

町内で給水区域が10キロ離れば、国庫補助対象になるが、片岡地区が5キロくらいの所にあり、補助対象にならない。そのため、片岡簡易水道に飛び地統合して、国庫補助対象事業として21年度に国に要望する。

農業費

山椒の乾燥機と倉庫建築の補助 208万円

こうち農業確立支援に208万円。公用車購入費に349万円。小浜、西浦、鎌井田など5カ所の作業道等の舗装用生コン支給に140万円などを計上。

武智龍議員

こうち農業

確立支援事業負担金208万円の内容及効果は。

小田産業建設課長

山椒組合に、乾燥機1台とそれを収納する倉庫建築費の3分の2を補助する。

小規模農家は天日干しで出荷しているが、品質が安

定しないため、乾燥機を使って良質な出荷につなげる。関係者は39戸。倉庫は、木造で銅板葺き平屋建て50平方メートル。

山橋正男議員

公用車の内

容は。

大原総務課長

古くなった

教育委員会の10人乗りワゴン車を廃車にして、同様の車を買う。財源は全額国庫補助金。

西川晃議員

公

用車は議会の委員活動などにも利用できるか。

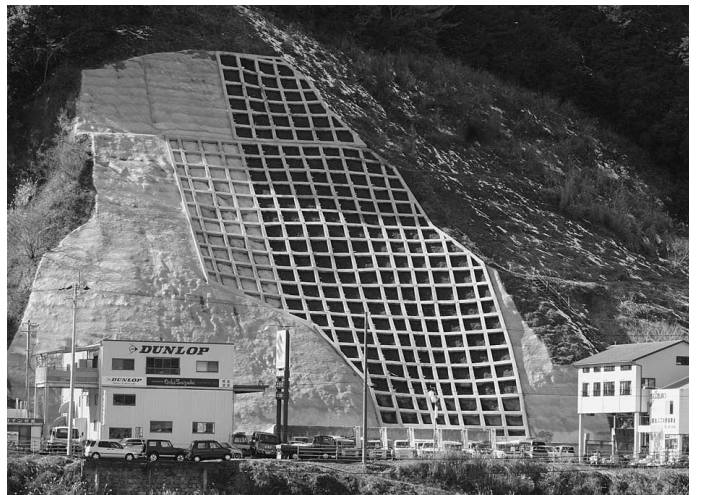
大原総務課長

当然利用できる。



乾燥機の倉庫予定地（鎌井田樋ノ瀬）

桐ノ峠線舗装や野老山本線局部改良などに1,780万円



住家防災工事で落石の恐れがなくなった

土木費

町道桐ノ峠線舗装、野老山本線局部改良、西浦線側溝蓋設置、柚ノ木薬師堂線のガードレール設置などに1780万円。横倉のがけくずれ住家防災工事の減額1145万円など。

小田産業建設課長

最終事

業費は4654万7000円で、県の補助が2327万3000円、個人負担が20万9300円、個人負担が1390万円。

大川信輝議員

減額になっ

た内容は。

小田産業建設課長

上部の法枠とアンカー工で地盤が安定したので、下部の擁壁の追加部分とストンガードを除いたため。

野老山ヘリポートを舗装

消防費

0万円。

野老山のヘリポート舗装工事に40

教育費

スクールバス車庫舗装に29万円。

桐見川小学校駐車場舗装に200万円。越知中学校体育館基礎補修に150万円などを計上。

山橋正男議員

桐見川小学

校は休校中だが、舗装をすることの説明を。

山中教育次長

四国自然史

科学研究センターが使っており、地区のイベントなどにも利用されている。運動場の下段でプールの横に整備する。



条例の一部改正

職員給与500円加算

10月に示された高知県人事委員会の勧告に基づき、現在の職員給料に500円を加算する。実施は平成20年4月1日からで、全体で64万4000円の増額。

(賛成・全員)

出産一時金を3万円を加算

産科医療保障制度に加入している病院等で出産した場合、現行の35万円に3万円を上限として加算する。1月1日から実施。

(賛成・全員)

町道の変更

裏街13号線(5区)

路線周辺の空き地を地権者3人から町道として寄付されたことの追加。

・延長23・5㍎

・幅員4・1㍎6・9㍎

(賛成・全員)

工事の変更契約

町道仲川内線改良工事

再測量による掘削土量の増加と張りコンクリートの追加施工による増額。

・契約金額

変更前 522.9万円

変更後

589.4万1750円

・契約相手

(有)片岡組 片岡大介

(賛成・全員)

教育委員の任命

・井上美三

・昭和25年4月21日生

・越知甲1536番地12

(同意・全員)



明るく元気に育ってね

意見書 (要旨)

保育制度を守り環境の整備を

提出者 大川信輝議員



笑顔が絶えない環境を(保育園)

地方の道路整備の財源確保

提出者 寺村晃幸議員

平成21年度の道路への予算配分は、整備の遅れている地方に優先的な配分を行うこと。

四国8の字ネットワークをはじめとする道路予算全体が縮小しないようにすること。(賛成・全員)

【提出先】総理・財務・国土交通の各大臣

気候保護法の制定

提出者 斎藤政広議員

気候の安定化のため、世界各国と強調した温暖化防止対策を実践することが重要である。

京都議定書の6割削減目標を守り、温室効果ガス的大幅な削減の実現を約束する法律の制定を要請する。(賛成・全員)

【提出先】衆参両院議長、総理・外務・環境・経済産業・国土交通の各大臣

介護制度の改善を

提出者 武智 龍議員

誰もが必要なサービスを受けられる介護の実現と介護職員がいきいきと働ける環境整備が急務である。

保険料・利用料、居住費・食費などの軽減を行い、サービスの利用制限をやめ、職員の給与・労働条件の改善を実現し、

必要な介護が適切に保障されるよう制度の改善を求め。(賛成・全員)

【提出先】総理・厚生労働の各大臣

協同労働の協同組合法の制定

提出者 岡林 学議員

非正規雇用者など働く意思のある人たちが協同で出資し、経営管理、協同生産、サービスなどの

提供を行う協同労働の協同組合の制度を創設し、格差、貧困を克服するため、労働者としての法的保護を受けられる法律の制定を求め。(賛成・全員)

【提出先】衆参両院議長、総理・総務・厚生労働・経済産業の各大臣

農作業ヘルパー 制度の創設

補助制度ができれば
取り入れたい／産業建設課長



議員 龍智 武

農業振興策

問 農産物販売にプロの指導員を入れることの検討はしたか。
担い手農家の人手不足解消や雇用者の労働災害対策、農村・農業の振興を図る上で「農作業ヘルパー制度」(仮称)の創設を考え

てはどうか。

農地法の改正に伴う新しい課題に取り組むため、組織の再構築を検討すべきではないか。

吉岡町長 プロの指導員は、町単独でなく県全体で取り組むべきだと知事に話している。

荒廃農地対策は、中山間地等直接支払い制度を活用する地区を一つでも増やすことに努力している。

農作業ヘルパーについては、山椒、シヨウガなどの作業にシルパー人材センターが多く活用されている。新たな制度は、その仕事を頼りにしている組織のことも考えて検討したい。役場組織の再構築は、課長会で可能性を協議したい。

小田産業建設課長 ヘルパー制度は、農家にとつては大変ありがたいが、今後、国や県の補助制度ができれば取り入れたい。



園児の安全対策が急務だ

幼稚園の防犯対策

問 休校施設の活用アンケート集計結果の対応として、庁内に設置した「休校学校活用検討会」ではどのような意見が出たのか。
幼稚園は、防犯上危険な状態である。幼児は無防備であり、不審者等の侵入防止対策を早急に行うべきだ。また、教諭が研修参加できるように、代替教諭の確保ができないか。
県教委は、幼稚園と保育園の一本化を進めているが、本町ではどうか。

フェンスを早急に改善

西森教育長 幼稚園の防犯に必要なフェンスなどは早急に検討する。
代替教諭は、教頭がしているが、人材派遣も困難な状況で、有資格者の確保に大変苦慮している。資格のない方の活用も必要に応じて検討したい。
幼保一元化は、県の説明があったが、一本化は難しいと思う。今後、担当課と協議したい。

山中教育次長

休校活用検討会の初会合で、アンケートの10割以上を占めている

社会福祉、社会教育、宿泊施設、町営住宅について検討することになった。

外貨導入

アンテナショップの活用 県管理を提言／町長

問 県は「産業振興計画中間取りまとめ」の事業実行にあたり、21年度予算案に85億円を計上し、外貨導入のため東京や高知市内へのアンテナショップなどを計画している。
町は、その売り場面積の確保など、どのような活用計画を立てているか。

吉岡町長 外貨導入は当然だが、県の方針原案が2月末に作られることになっており、今は町として具体的な計画を立てる段階ではないし、そういう構造でもない。県の考えを見ながら準備をするしかない。

東京のアンテナショップの売り場面積の確保は、現時点では考えていない。高知市へのショップは、過去に町村が個々にやって失敗をした例もあるので、県が一括して管理するように県に言っている。

●休校学校活用検討会

副町長、教育長、総務課長、産業建設課長、住民課長、生涯学習課長の6人で組織し、休校校舎活用の可能性などについて話し合う。

その他の質問

問 旧JR越知駅跡地の検討状況と活用策は。
答 観光協会がリードして進めている。今の人員では足りないので、一人増やしたいと思っている。



議員 廣政 藤齋

産業振興計画

専任体制の整備を 年明けには 組織づくり／町長

問 県が作成中の産業振興計画では、▽推進する専任組織の新設、▽地域アクションプランの実行を支援する体制を地域ごとに整備、▽実行に対しては総合補助金の創設や支援策の実施、を考えている。

県や共同で行う市町村や団体との連携が大切だと思いが、これを機に新しいことに取り組みきつかけとして、機構改革などで専任体制の整備をしてはどうか。

また、茶の価格が暴落しており、放置すれば茶園は荒れ果てるがどうするか。

吉岡町長

県の産業振興計画と地域アクションプランは平行して進んでおり、徹底した議論をしている。

町の体制づくりは遅れることのないよう年明けには一定の組織づくりをしていく必要がある。

茶については、現実には厳しい状況であり、加工も含めた新しい考え方も必要ではないかと思う。あきらめたわけではない。

町民会館駐車場の舗装

問 町民会館西側の駐車場は舗装がなく、雨天はぬかるみとなり困っている。財政も厳しいが、多くのイベントや会議などで利用されており、少しずつでも舗装はできないか。

補助事業で早く実施

吉岡町長 交付金事業でなるべく早く実施したい。

山中教育次長

対象面積は

905平方メートル、費用は約400万円必要だが、国の第2次補正予算で地域活性化・生活対策臨時交付金事業が計画されており、補正予算が成立し採択されれば実施したい。



舗装して利用しやすい施設に

取り組みを急げ 雇用に向けて準備／総務課長

集落支援員



地域を守る活動が欠かせない

問

山間集落対策の集落支援員については、9月議会では、まだ十分な情報はないとのことだったが、その後の進展はあったか。

山間集落は、過疎・高齢化がますます進み、季節ごとの住人や別宅として利用している人など、住民票だけでは把握できない状態となっている。

災害時などにも備えるため、集落の実態調査が必要である。費用は特別交付税で措置してくれるので、なるべく早く取りかかるべきではないか。

大原総務課長 集落支援員制度は、過疎問題懇談会の提言で総務省が打ち出した制度で、地域の実情に詳しい外部人材を活用して集落の維持活性化を図るもの。町の職員も一緒に動き共通認識を持つ。

大原総務課長

集落支援員

把握、集落点検、点検結果の話し合いとその際のコーディネートを務める。

適当な人材が見つかるかが問題だが、熱意や積極性がある人が望ましく、雇用に向けて準備している。まず必要と思われる地区に設置したい。

設置したい。

待ち望んでいる給付金 総額1億1000万円／町長

生活支援



おおかわのぶき 議員
大川信輝

問 国民の多くは生活支援の定額給付金を待ち望んでいる。

いつごろどんな方法で給付されるのか。また、事務労力と経費はどうなる。道路特定財源の一部が、

一般財源化され地方に交付されるが、道路財源として確保すべきではないか。

吉岡町長

定額給付金は、政府与党が取りまとめ中で、住民に説明する段階にはなっていない。本町の支給額は約1億1000万円で、所得制限は行わない。

藤原住民課長

県には説明があつたようだが市町村にはまだない。

事務経費は、年度末の忙しいときに重なることが予想され、相当の労力と経費が必要だが、国が全額負担することだ。

受給対象者は、住民基本台帳や外国人登録されている人で、世帯主に支給する。

支給額は、1人1万2000円で、65歳以上と18歳以下は8000円の上乗せがある。

申請や支給方法は郵便や窓口での取り扱いを考えている。

環境問題

太陽光発電の導入・拡大 問い合わせには対応する／総務課長

問

地球温暖化は深刻な問題でCO2(二酸化炭素)を出さない太陽光発電が注目されている。

経済産業省が発表した太陽光発電の導入・拡大の具体的内容は、また、補助金と申し込み方法は、

大原総務課長

国の低炭素社会づくり行動計画の中で、太陽光発電量を2020年に10倍、2030年には40倍にし、3―5年後には

発電システムの価格を半額程度にすることを目標としている。

材料・素材の技術開発、機器システムの低コスト化、発電効率の向上などを図り、企業、公共施設、一般住宅などへの導入を推進する。

国の補助金は、1キロワット7万円で、一定の要件を満たすものが対象で、国の補正予算が成立後になる。

申し込みは町を通じるのではなく、設置業者を通じて行う。町も問い合わせには対応したい。



環境を考えてマイ箸やマイスプーンを製作



国道の横断は危ない

高吾苑の駐車場

問 高吾苑の駐車場は、国道を挟んで向かい側にあり危険とのこと。火葬場側に作ってもらいたいと4000人余りの署名を添えて請願をしたが、その後どうなっているか。また、予算と町の負担はどうなるか。

吉岡町長 用地の話はつき、広域の単独事業でやりたいと思っているが、3町の意見もあるので調整が必要だ。

3月に広域単独で

その他の質問

費用は、土地代を含めて1300万円くらい。駐車場は間口が18メートル、奥行き15メートルで危険度は少なくなる。3月の組合議会で承認されれば実施したい。
〔9ページに関連記事〕

問

鳥獣被害対策として、個人で許可を取って捕獲することに支援はないか。

答

銃の捕獲が主で、今は猟友会に依頼している。

休校校舎

学校跡地に介護施設を
耐震問題や需要が課題／住民課長

藤原 俊夫 議員

問 教育委員会から、現在休校中の学校活用アンケートの調査結果について説明があった。

その中では、社会福祉の活用意見が多かった。広域の介護施設は満室で、多くの人が順番を待っている状態である。また、重度の介護認定の人が優先的に入所する。

休校施設を住宅・介護施設一体となった老人寮のようなものにはできないか。

藤原住民課長

在宅と施設

や医療機関との中間のような施設があれば良いと考えている。医療機関もいろいろ考えているように聞いている。場所によっては有効と思うが、耐震補強や需要の問題がある。

また、限界集落の調査では、9割の人が今の所で暮らしたいとの意見もあり、今後の検討課題である。



防災拠点として利用(野老山小学校)

渋滞解消とトイレの増設

案内方法と増設を検討／産業建設課長

コスモスまつり



知事も来園された

問 今年のコスモスまつりは、天気にも恵まれたが、国道の渋滞で多くの人に迷惑をかけた。

文徳から公園への道はあまり渋滞解消に効果がなかったと思うが、来年は渋滞を少なくするべきだ。

また、トイレが少なく来園者に不快感を与えたが、増やせないか。

小田産業建設課長

コスモ

スの花も順調に咲き、近年にない人出であった。渋滞解消のための文徳と公園を結ぶ大荒線は、あまり生かされなかった。来年は案内方法なども研究をしたい。

トイレは増設を検討したい。

介護保険料の見通し

問 平成21年度から介護保険料が変わる。全国平均では、65歳以上は180円くらい上がるようだが、本町の保険料と介護を受ける人数はどうなるか。また、剰余金と基金はどうなっているか。

10月の試算では300円アップ

藤原住民課長

10月段階で

の保険料試算では300円くらい上がり、4600円くらいの見通しである。

原因は、高齢化率の伸びによる介護認定者、サービス受給者、介護給付費の増加と介護報酬の3割引き上げなどによる。

本町は、準備基金は持っていない。3月議会に、剰余金を積み立てる基金条例の設置を提案したい。

その他の質問

問 定額給付金は期待する人やバラまきとの意見もあるが。

答 経済の浮揚にはどうかと思う。良いところもあるが、どちらとも言えない。

問 厚生労働大臣の国保医療と後期高齢者医療を統合する私案は。

答 動向を見守るしかないが、変えるとなると大変なことになる。

お知らせ

今号の一般質問等の追跡記事は、紙面の都合上、休ませていただきます。



講師の話に耳を傾ける



愛読される 議会だよりをめざして

議会広報全国研修会 10/27-28

平成20年10月27-28日の2日間、東京都・砂防会館で第69回議会広報全国研修会が開催されました。議会だよりの編集技術や分かりやすく親しんでもらえる文章づくりを学ぶため全委員が参加しました。

1日目は、3氏の講演があり、分かりやすい文章の書き方や添削の仕方、用語や漢字の使い方など基礎的な編集技術を学んだ。

また、読まれるための広報活動は、情報が住民の視点に立ったものかを検証して軌道修正し、読者に近づく努力が必要とのことであった。

さらに、インターネットによる広報活動も重要で、住民の気を引く具体的な出来事や地域の特徴を出して、内容を見やすく、分かりやすく充実させるとともに、パソコンが使えない高齢者や障害者への対策も必要であることを学んだ。

2日目は、参加者220人が3分科会に分かれて議会広報クリニックが行われ、本町は第1分科会で、広報コンサルタントの深沢徹氏のクリニックを受けた。



編集姿勢、記事の要約、文章表現、技術などほぼ万全の議会広報との評価であったが、誤字や改善点の指摘も受けた。

今後は、クリニックの高評価に甘んじることなく、さらに研さんを積み、編集能力を一層高める努力が必要であることを実感し、意義深い研修であった。

深沢氏の評価の基準は、①基本姿勢と企画、②文章・用語・表記、③編集・印刷技術の3要素であり、それぞれ、たいへん良い(星五つ)から改善を要する(星二つ)までを4段階の星の数で表している。

本町の議会だより第85号の評価は、同時にクリニックを受けた他の5町の評価をはるかにしのぎ、3要素すべてが星五つの高評価であった。



クリニックで編集能力を高める

広 域 議 会

12月3日 定例会

平成20年度補正予算

(単位:万円)

会計名	補正額	補正後の額
一般会計	394	9億6,602
特別会計		
特別養護老人ホーム	△80	12億4,940
知的障害者更生施設	△138	1億6,133

最終処分場の シート修繕に562万円

▼高吾苑の駐車場は、佐川寄りの小山を削る案は、工事費が1300万円以上掛かるとのこと、信号機設置を佐川署に要請したが、常時使わないため難しいとのこと、再度町長協議会で検討し結論を出したい。(7ページに関連記事)

▼最終処分場の遮水シートの修繕に562万円掛かる。組合と業者が5割ずつを負担するように考えている。

▼し尿収集業者から手数料値上げの陳情があった。県下施設と比較しても安いとは認められず、住民の理解も得にくいため、値上げは見送り、業者に通知した。

有機農業を学ぶ

島根県吉賀町（旧柿木村）の取り組み

島根県吉賀町は、平成17年に旧柿木村と旧六日市町が合併し、総面積は336・3平方キロ、人口は7138人の水と緑に囲まれた農山村地域である。

近年、輸入野菜や加工食品への残留農薬などの問題で、食に対する安全性が崩壊し、安全な農作物の生産と環境に配慮した農業経営が重要視されており、昨年10月23日に全議員が吉賀町を訪問し、旧柿木村の有機農業の取り組みを、産業課長の福原史史さんに伺った。

また、昭和36年に建設された旧柿木中学校が老朽化による移転廃校となったため、卒業生などから「校舎がそのまま寂れていくのは忍びない」との声が挙がり、旧校舎を住民の活動拠点として再活用しており、施設を運営しているNPO法人の井川保理事長と職員の方々に活用状況を伺った。

公害がもたらした有機農業への転換

取り組みへのきっかけは1960年以降の高度経済成長期に遡る。

当時は豊かさや便利さの一方で公害による自然破壊や健康被害がもたらされていた。川や海が汚染され、瀬戸内海の底物魚は食べることが禁止されていた。

そういった中で、健康や環境に配慮し、農薬や肥料を使わない農業に30年前から取り組み、平成3年に村の振興計画で『健康と有機農業の里作り』を基本目標に掲げ、環境保全や都市との交流、次世代の育成にも力を入れている。

現在は、山口県や島根県、広島県の学校給食センターや生協、スーパーなどと提携して販路を広げている。

自給を優先した経営

国の農業政策では、町内の小規模な農業・集落の将来に明るい展望は見出せず、町独自の生産流通システムを作る必要があった。

狭く傾斜した耕地を持つ山間地では、経営規模の拡大や大量の商品化で競争力を持つには限界があるため、自給を優先した「小規模複合経営」を進めている。

競争しない農業

山間地域では専業農家は限られており、単一・単作での所得の確保は困難で、兼業で必要な所得が得られることを前提にしている。小農家がいきいきと暮ら

し、年齢や体力に合わせて自ら耕し、人との交流を通じて消費者支援や農地の維持を図っており、『競争しない農業』が基本的な考え方となっている。

農家の食卓が最もぜいたく

合成添加物や着色剤、防腐剤などを使わず、農家で作って食べている野菜や味噌、漬物などが、都会では最も高価でぜいたくな食材であることに着目した。

販売体制は、青空市や学校給食、道の駅、町内飲食店、スーパーなどの身近なところから整備し、広島へアンテナショップも出している。

都会は正直を求める

福原課長は、「土づくりも地域の有機物や残り野菜を利用し、よそからは入れない。未熟な有機物は虫が付きやすいので熟成したも



有機農業の取り組みを懇切丁寧に説明いただいた

議員視察研修レポート

廃校校舎の活用と

のを使う」「季節に合った旬の野菜を作り、多種を組み合わせた栽培で害虫も少なくなる」と述べられ、「都会には正直がないので、正直を求めて山村に来る。消毒や化学肥料を使えば野菜はきれいだが、来る人を裏切ることになり、交流は途絶える」と都市との交流は正直さが大事であると強調された。

山村の豊かさは金では買えない

また、「売り買いを考えず、安全で安心なものを供給することで理解を得られる」と述べられ、さらに「きれいな空気と水と安全な食べ物があれば、健康状態も良く、医者にかかることもない。山村の豊かさは金では買えない」と力説され、吉賀町の真剣な取り組みに感銘を受け、有意義な視察研修であった。



素材の良さを生かし、味付けはシンプル

年60万円の利益

廃校施設は木造2階建てで、改修費は5144万円。内訳は、国庫補助1350万円、起債3780万円、町費14万円となっている。できるだけ昔のままを残して、レストランやトイレなどを改造している。運営は、NPO法人「エコビレッジかきのきむら」

が町から指定管理者の指定を受けて行っている。指定管理費として町から年間475万円、施設運営および事業収入が約320万円、県の事業補助金が約150万円、会費30万円などで、人件費や事業費の経費を引くと、わずかだが年間約60万円の利益がある。

玄米でおいしい食事

現代風なおしゃれな感覚で、地元の人3姉妹が経営するオーガニックレストランは、食材や調味料はすべて無農薬。ご飯は玄米100%である。1000円の昼食は野菜たっぷりの自然食で、大変おいしかった。手づくりケーキやコーヒーなども好評とのことであった。



柿木地域振興室の福原靖子さんから施設の概要を聞く

●オーガニック

有機栽培。化学合成農薬や化学肥料に頼らず、有機肥料などで土の持つ力を活かす農法。

木工や手芸の展示や体験学習

交流室は、町内外の方のさまざまな製作発表の場や手づくりの品々の展示販売、木工や手芸など、地域に住む達人を先生にして、ものづくりの体験学習などに活用している。

研修宿泊者が地元婦人の指導を受けて、自分たちで調理を行うことができる調理室も備え、定員10人の宿泊施設が2部屋、トイレ・シャワー室、事務室が整備されている。

毎月700人が入館

入館者は安定しており、毎月約700人が訪れている。広島や山口、岡山の近隣県や北海道や沖縄からも訪れるとのことである。

本町の休校施設の活用には、さまざまな課題があるが、今回の吉賀町の取り組みを一つの参考として、有効な活用策を見出さなければならぬ。



議会です
とんちには

園児との交流で 地域も元気に

野老山『6人衆』



たくさんの孫やひ孫に囲まれて楽しい一日



野老山地域でさまざまな活動をしている『6人衆』と呼ばれるグループがいる。
『大人の学校』から発展し、子どもたちの体験学習のようなものがないかと考え、気の合う仲間『酒好き』6人が始め、最近10人以上のメンバーになった。
野老山小学校の横に、昔の公民館の一部を改造して、調理場や大きな囲炉裏を作り、みんなのたまり場になっている。



火付け役の6人衆



幼稚園児とイモの苗の植え付けや収穫、採れた野菜などを調理して一緒に食べたり、園児からは歌や踊りを披露してもらい、子どもたちのふれあいで地域に活気が生まれ、みんな元気老人だ。
「ほとんどの者は医者に掛かり、薬も飲みゆうげんとアルコールも欠かせん」と笑い飛ばす。
「町にいたる子どもは、一緒に住もうと言ってくれるが、ワシらはこの方がえい」
「高齢化が進み、田畑の世話もしんどい。これからは、地域で助け合って耕地を守っていくような活動もしたい」と心強い言葉だ。
決して堅苦しくなく、地域住民が元気で明るくなるように気軽に取り組んでおり、他の地区でもやれるように感じた。

次の定例会は3月です。傍聴においでください。

へんしゅう後記

2009年の幕開けに初夢を見られた人も多いと思いますが、私は、JR越知駅跡地活用の夢でスタートしました。
真新しい施設では、農産物が飛ぶように売れ、インターネットで知ったという県外客が大勢の人と餅つきをしているシーンで目が覚め、絶対に成功してほしいと願いました。
定額給付金が物議を醸していますが、一方では地方分権改革が進み、道州制にでもなれば、国や地方自治体は大きく様変わりしそうです。
町の将来をしっかりと見据えた自立の取り組みが必要です。そのためにはある程度の時間を要するので、今年には自立元年になりそうです。(武)

編集・発行責任者

議長 片岡清則

議会広報調査特別委員会

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 西川 晃 |
| 副委員長 | 岡林 学 |
| 委員 | 片岡 久一 |
| 委員 | 斎藤 政広 |
| 委員 | 武智 龍 |

※分かりやすい紙面にと心がけています。読後のご感想、ご意見をお寄せください。

印刷・(資)佐川印刷所